

令和5年度大阪府地域活動栄養士情報交換会

日時：2023年7月1日（土）14：00～

会場：エル・おおさか

「大阪府地域活動栄養士情報交換会」の参加者は、大阪府下で活動する21グループのリーダー及び所属している会員とグループに所属していない会員を含め48名でした。この情報交換会は毎年開催されていますが、今年は新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられたことから、久しぶりにグループディスカッションも実施され、活発な情報交換が行われました。

まず地域活動部会 清水部会長の挨拶、賛助会員と出席者の紹介があり、そのあと（公社）日本栄養士会定時総会の報告がありました。その中で令和6年度より地域活動と勤労者支援の職域が統合され、「フリーランス・栄養関連企業等」となることが伝えられました。また、橋本参与より栄養ケア・ステーション、（公社）日本栄養士会公衆栄養研究会、近畿ブロック研修会、ケトン食療法講習会等の開催予定についての情報提供がありました。

次に、大阪府地域活動栄養士の各地域グループへの「事前アンケート」の結果報告では、

1. 令和4年度に実施した事業では、料理教室（66.7%）、勉強会（61.9%）、栄養指導・相談業務（52.4%）、講演会（42.9%）の順でした。
2. 子ども料理教室の開催について、今後実施ができるかの間に対し実施可能と回答したグループは33.3%でした。開催が困難な理由として、最も多い理由は人員不足（73.3%）、施設を借りることができない（26.7%）、書類が煩雑のため作成ができない（26.7%）等でした。
3. Web、Zoom、SNSの活用については、47.6%のグループが使用し、YouTubeやLINE、Facebook、Instagram等で料理の紹介やホームページから活動状況の発信等を行なっていました。子ども料理教室を実施できるグループが少なく、人員不足の場合は近隣のグループが協力して子ども料理教室ができるよう前向きに考えてほしいと理事からのお願いを得て、情報交換会の終了後、今後の実施に向けた話し合いが行われました。

グループワークでは5班に分かれ、地域活動部会の今後の発展や個人の資質向上に向けてどのようなことを行なっているのか、約1時間の話し合いが行われました。①スキルアップするための方法については、大阪府栄養士会開催の生涯教育や企業の発信している勉強会が最も多く、他に新聞、管理栄養士国家試験問題、論文を読む、料理番組のチェックをする、各種ガイドラインの確認、レシピやパソコンについての勉強をする等で資質の向上を目指していました。②何を利用してスキルアップをしているかについては、コロナ禍でSNSの活用が多く、特にInstagramはFacebookより仕事や仲間と繋がりがやすいとのことでした。和泉市の例として、#和泉市、#食育・・・とハッシュタグを付けると、仕事の依頼に結びつき、さらに口コミで依頼が増えているという発表がありました。その他のスキルアップについては、パッキングや料理の写真の撮り方等集合型の勉強会も行なわれていました。③スキルアップをどのように活用しているかについては、ひらかた地域活動栄養士会 栄養アドバイザー「萌」では活動に必要な資金を行政や社協等の助成金を得て、苦手であったパソコンを学び「食育ゲーム」を作成し、ホームページにアップして一般の人へ公開していました。また和泉地域活動栄養士会 菜々の会ではグループが高齢化する中で若い会員を増やし、同世代の会員を紹介してもらうようにして、現在6名の若い会員が増え、それぞれの会員の強みを使ってグループの活動が活発になっているという報告もありました。

理事からは、今はInstagramの時代で待っていても仕事はこない。リサーチ力をつけ自分たちの

情報発信をすることが大切で、時代にあった対応が必要である。また生涯教育研修会の内容をより良いものが提供できるよう考えていきたい。各グループで出来ていないところは見直し他のグループの活動を参考にしてもらえると、この情報交換会の意義があるとまとめられました。閉会后、各企業の勉強会の案内や参考になる図書等の情報提供の場を作り、必要な情報を持ち帰れるように配慮されていました。賛助会員のカゴメ株式会社による「ベジチェック」も好評でした。久しぶりに活発なディスカッションが行われ、出席者にとって有意義な時間であったと感じました。

(文責：地域活動部会 橋本 通子)

